

# 公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成19年7月6日

施設名	高知県立県民文化ホール	所管課室	文化推進課
-----	-------------	------	-------

## 1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県文化財団	指定期間	平成18年4月1日 ~ 平成21年3月31日
施設所在地	高知市本町		
事業内容	県民の明るく豊かな文化生活の向上に寄与するための文化事業の実施、及び音楽、演劇その他の催しのための場の提供を行う。		
施設内容	面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など <建物>延べ床面積: 11,842.77㎡ 鉄筋コンクリート(一部鉄骨)地下1階地上4階 <土地> 5,288.15㎡ <主要施設> 大ホール(1504席)、小ホール(500席)、楽屋、リハーサル室、多目的室など <開館時間>午前9時 ~ 午後10時 <休館日> 12月27日 ~ 1月1日 <主な料金> ホール・多目的室は午前・午後・夜間・全日の別で料金設定		
職員体制	常勤職員: 6人 契約職員: 3人 合計: 9人		

## 2 収支の状況

単位:千円

		平成17年度(決算)	平成18年度(決算)注3	平成19年度(予算)
収入	県支出金	190,286	98,149	129,357
	事業収入		60,601	100,222
	その他	18,745	1,033	624
	収入計	209,031	159,783	230,203
	(事業収入)注1	75,335		
支出	事業費	別途補助金・助成金等による	0	8,544
	管理運営費	209,031	146,324	207,334
	(うち人件費)	(53,343)	(45,605)	(53,343)
	その他	0	13,858	14,325
	支出計 注2	209,031	160,182	230,203

注1 平成17年度は「指定管理者制度」導入前であり、事業収入は県の収入。

注2 平成18年度以降は文化財団総務部の経費を5つの施設で按分計上(平成17年度は美術館に全額計上)

注3 平成18年度は半年間の休館期間がある。

## 3 利用状況

	平成17年度実績	平成18年度実績	前年度比
年間利用者数(単位:人) 18年度は4月から10月 まで休館	大ホール入場者数 252,040 人	90,360 人	-161,680 人
	小ホール入場者数 64,233 人	26,945 人	-37,288 人
	合計 316,273 人	117,305 人	-198,968 人
	<利用実績> 平成18年度は改修のため通常の予約受付ができず、また半年間の休館という特殊な事情があったが、再開後は概ね順調に利用がされている。また年度途中から新たに貸出施設となった多目的室についてはその利用促進が課題となっている。		
利用者意見等の反映	利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)		
	・平成18年度は改修工事による半年間の休館があったため自主事業を実施していないが、事業を実施する際には入場者へのアンケートにより、その後の企画に活かすようにしている。 ・施設利用者とは日常的に情報交換する場を設けており、その意見はその都度、管理運営に反映させている。		
	その他 ・利用者による運営協議会(年2回)や県内のホール担当者による文化施設協議会(年3回)で文化ホールに対するニーズを把握しており、要望については検討のうえ対応している。		

その他特記事項	貸館の外、他ホールや学生に対する技術支援を実施。 ・技術職員派遣研修 室戸市保健福祉センター6回 田野町ふれあいホール4回 四万十町体育館2回 院内コンサート2回 ・県民文化ホールでの技術研修2回 ・高校演劇支援3回
---------	---

#### 4 平成18年度業務評価

項 目	状 況 説 明
管理運営に関する評価	施設設備の管理、貸館業務に関して適切な管理運営が行われている。  ・利用者に協力的で丁寧に管理されている。 ・こうしたホールで長期間事故がないのは管理が適正である顕れであり評価できる。 ・効率的な設備の運用、保守に努めており、経費削減効果も表れている。 ・少ない人員体制で運営されており効率的である反面、特に施設管理の専任専門職員がいない点など、できれば体制強化を図る必要がある。 ・文化活動を行う団体からは利用料金の高さを指摘する声がある(特に多目的室の料金)。今後の検討課題。 ・例えば貸出(利用)区分を時間単位にするなど、利用者の視点で利用しやすい対応の検討が必要。
事業の実施(企画及び運営)に関する評価	・予算、人員面で制約があるなかで努力を行っている。 ・可能ならば、スタッフの充実、自主事業の増加を検討すべき。あるいは共催事業の増加による芸術鑑賞機会の充実を検討することが必要。 ・貸館事業が中心であるが、県内ダンス界の垣根を超えた「DANCELABO」の取り組みは、共催企画の一つの方向性を示した。 ・他ホールへの技術指導は、頻繁に実施しており、県内ホールのけん引役としての役割を果たしている。 ・創造的な活動の支援という点で、美術館のように表立ってではないが、着実な活動をしている。 ・多目的室については、体制も予算も不十分ななかで新たに貸出しを開始したという面はあるが、県民にニーズがあるにもかかわらず働きかけが弱い。
総体的な評価	・県内最大のホールとして、代替ができない大きな役割を担っている。 ・芸術の振興やサービス向上の視点では引き続き努力が必要。 ・限られた体制ではあるが、自主事業のより一層の充実を望む。
総合評価	・基本的に貸館事業を適切に行っている。 ・平成18年度は半年間の休館があったため、成果が出にくく評価が難しい。 ・自主企画事業を進めるには体制だけでなく予算面の制約があるが、県民により良い舞台芸術の鑑賞機会を提供するという視点で、共催事業も含めて取り組んでほしい。 ・多目的室の利用促進が今後の課題だが、体制として現状のまま利用が増れば、勤務が過重になることが予想される。部分的に利用者団体が自主運営を行うなど、視点を変えた取り組みも検討してはどうか。 ・職員増など組織体制の充実是指定管理者だけの努力ではできない面があるため、県等との協議が必要。

[評価の目安]

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの  
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの  
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの  
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの